

これからの都市間交流の形 長崎市・アバディーン市の市民友好都市提携

平成22年7月12日、アバディーン市庁舎において長崎市・アバディーン市の市民友好都市提携式典が開催されました。日本の近代化に貢献したイギリスの商人トーマス・グラバーがスコットランド地方東部のアバディーン出身であったことから、民間交流団体による日英の大学生の交換事業が1996年から実施されており、今回の提携へとつながりました。提携式典にはアバディーン市長、田良原在エディンバラ総領事、市議会議員、翌日から今年のトーマス・グラバー奨学生として長崎市に3週間へ派遣される学生、大学関係者等が参加しました。当事務所からは所長及び姉妹都市提携の担当者が出席しました。

長崎市には日本初の姉妹都市提携である、アメリカのセントポール市（1955年12月締結）を含めて6つの姉妹都市がありますが、今回の市民友好都市提携は「長崎市国際化推進計画」で謳われているようにこれまでの姉妹都市提携の枠にとらわれず、市民や民間交流団体を中心となって自由で気軽な交流を深めることを目指して締結されたものです。

近年、日英いずれの自治体においても、財政難あるいは行政評価の実施下で、従来の国際交流では住民の理解が得られにくくなっています。当事務所では在英日本国大使館と共催で、日本の自治体と姉妹交流を実施している英国の自治体及び在英の日本関係機関参加の下、日英ローカルリンク会議（Japan-UK Local Links Conference）を開催し、交流の現状と今後の交流のあり方に関する意見交換を行っています（2009年3月に初回、今年3月に第2回を開催し、2011年3月に第3回会議を開催予定）。会議では国際交流が自治体にどのような付加価値を生み出し、どうすれば有益な交流ができるかに話題の焦点が当てられ、厳しい財政状況下での財源確保やJET経験者等外部人材の活用法等について議論を深めたところです。

交流を長く続け、その交流を地域社会や人々の活性化に役立てるためには、双方の地域社会や市民主体の交流や連携が重要になってきます。今回の長崎市とアバディーン市の提携のような姉妹提携という形によらない、民間交流の促進を目的とした新たな都市間交流の形態は日本国内でも増えており、今後も増えていくと思われます。当事務所としても、日英の姉妹提携自治体の交流が更に深まるように支援するとともに新たな交流の支援も行っていきたいと考えています。



アバディーン市内にあるトーマス・グラバーの生家「グラバーハウス」の門のプレート



グラバーハウス外観



市民友好都市提携書署名の様子
（右：ピーター・スティーブンス・アバディーン市長、左：田良原政隆 在エディンバラ総領事）